

2023 年度年次報告書
AI 活用で挑む学問の革新と創成
2022 年度採択研究代表者

福重 春菜

神戸大学 大学院保健学研究科
助教

個人特性を考慮したナースコール発生予測モデルの作成

研究成果の概要

本研究の目的は、看護業務の遂行に与える影響が大きいと言われているナースコールに着目し、その発生予測モデルを作成することである。それにより、更に効果的・効率的なナースコール対応方法を提案することで、より患者のニーズに沿った看護提供ならびに看護師のケア提供時間の増加を目標としている。本年度は、昨年度に作成したデータセットを用いて、ナースコール発報数が急激に増加する要因、ならびに年齢がナースコールの使用に与える影響について検証を行った。

ナースコール発報数が急激に増加する要因については、第一年次に行った検証において、同一患者・同一入院期間であっても、ナースコールを非常に多く発報させる日もあれば、ほとんど発報させない日もあることが分かったことから、ナースコール発報数が時に爆発的増加を起こす現象に着目し、爆発的発生の要因に関する検証を行ったものである。その結果、ナースコールが急激に増加する場合は、ナースコールを発生させた数分後に再度ナースコールを発生させることを繰り返す現象、いわゆる連打する現象が生じていることが分かった。また、この連打現象には発生しやすい時間帯があることや、患者の年齢特性があることが分かった。本結果の一部は、学会における口頭発表のみでの公表となっており、現在さらなる分析を行い論文に纏める予定である。

年齢がナースコールの使用方法に与える影響については、上記で年齢特性の存在が明らかになったことを受け、さらなる分析を行ったものである。また、本分析は世界に先駆けた少子高齢化が進む日本において、将来のナースコール発報数の傾向を予測するうえで重要な要素である。本検証により、ナースコールの使用の有無や、1人の患者が1日に発報するナースコール数には年齢特性が存在することが分かった。本結果については、次年度に国際学会におけるポスター発表が採択されており、論文化も進める予定である。